



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年1月31日

上場会社名 AZ-COM丸和ホールディングス株式会社  
 コード番号 9090 URL <https://www.az-com-maruwa-hd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 和佐見 勝  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 葛野 正直 TEL 048(991)1000  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	133,291	37.3	8,564	26.3	8,990	26.3	6,072	19.2
2022年3月期第3四半期	97,107	15.8	6,778	△2.4	7,120	0.5	5,095	4.3

(注) 包括利益2023年3月期第3四半期 7,900百万円 (67.9%) 2022年3月期第3四半期 4,704百万円 (△11.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	48.28	44.67
2022年3月期第3四半期	40.53	37.34

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	109,383		34,928			31.0
2022年3月期	85,909		29,735			33.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 33,902百万円 2022年3月期 28,944百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	9.50	—	9.50	19.00
2023年3月期	—	11.75	—		
2023年3月期（予想）				11.75	23.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	171,500	28.9	11,130	28.7	11,522	26.1	7,380	20.5	58.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期3Q	128,905,920株	2022年3月期	128,848,320株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	3,103,314株	2022年3月期	3,105,879株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期3Q	125,764,170株	2022年3月期3Q	125,714,206株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、役員向け株式給付信託及び株式給付型ESOPの信託財産として保有する当社株式354,758株を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報等) .....	9
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、行動制限の緩和により国内の社会経済活動に回復の兆しが見え始めた一方で、円安の進行等を背景とした原材料価格やエネルギー価格の上昇が続くなど、依然として先行き不透明な状況となっております。

物流業界におきましては、国内における貨物量は回復傾向にあるものの、労働力不足をはじめとした各種コストの高騰が企業の大きな負担増になるなど、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと当社グループは、新たな中期経営計画をスタートいたしました。中期経営計画においては、コアとなるEC物流、低温食品物流、医薬・医療物流の各ドメインにおける物量の増大への対応と、深刻化する人材及び稼働車両不足に対応し、事業拡大を支えるための人材の確保・育成、DXの推進・適用による生産性向上に注力し、持続的な成長の実現を目指しており、当第3四半期連結累計期間におきましても順調な成長を達成いたしました。また、経営資源の適正配分による成長事業への集中投資と低収益事業の再生・再編による経営の効率化に取り組み経済的価値の最大化を図るとともに、ESG経営を実践し事業活動を通じた環境・社会的価値の向上に努めております。加えて、BCP物流による社会インフラとしての物流ネットワークの構築を積極的に進めております。

EC物流事業では、既存・新規顧客に係る高品質・高効率なサプライチェーン（センター運営・幹線輸送・ラストワンマイル）一貫物流プロセスの構築により、顧客ニーズを充足させるとともに更なる事業の拡大を図っております。低温食品物流事業では、スーパーマーケット向けの物流ノウハウを集約したサービスメニュー「AZ-COM7PL」（アズコム セブン・パフォーマンス・ロジスティクス／7つの経営支援機能を付加した3PL）を発展させた調達ネットワークの構築、多様な輸送モードに対応した産直プラットフォームの構築、HACCP（食品の衛生管理手法）に適合した物流品質の向上により、新たな顧客の開拓に努めました。医薬・医療物流事業では、顧客企業の経営統合に合致した全国の物流ネットワークの最適化と最先端技術を駆使した物流センターの再構築に取り組み、顧客企業の事業規模の拡大と新型コロナウイルス感染症終息後の需要回復に対応しております。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高133,291百万円（前年同四半期比37.3%増）、営業利益8,564百万円（同26.3%増）、経常利益8,990百万円（同26.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益6,072百万円（同19.2%増）の増収増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、事業ドメインの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については前年同四半期の数値を変更後の事業ドメイン区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### ① 物流事業

##### <輸配送事業>

###### (ラストワンマイル事業)

ラストワンマイル事業においては、新たな配送エリアの受託及び稼働台数の拡大が寄与した結果、売上高は26,901百万円（前年同四半期比20.4%増）となりました。

###### (EC常温輸配送事業)

EC常温輸配送事業においては、強化している幹線輸送に加え、年末にかかる大規模な物量増への対応が寄与した結果、売上高は42,926百万円（前年同四半期比59.9%増）となりました。

##### <3PL事業>

###### (EC常温3PL事業)

EC常温3PL事業においては、ファイズホールディングス(株)の連結子会社化と新たな大型物流センターの開設等が寄与した結果、売上高は31,310百万円（前年同四半期比69.0%増）となりました。

###### (低温食品3PL事業)

低温食品3PL事業においては、積極的な営業開発による新たな食品スーパーマーケットの物流センター稼働に加え、既存センターにおける年末物量増が寄与した結果、売上高は14,941百万円（前年同四半期比6.7%増）となりました。

###### (医薬・医療3PL事業)

医薬・医療3PL事業においては、主要取引先であるドラッグストアをはじめとする既存取引先にて、医薬品や化粧品をはじめとする主力商品の物量増が寄与した結果、売上高は15,427百万円（前年同四半期比5.0%増）となりました。

以上の結果、物流事業における売上高は131,507百万円（前年同四半期比36.4%増）の増収となりました。

利益面では、燃料調達価格や光熱費の上昇に加え、物量増加に対応する労働力及び輸送力の増強に係る一時費用、M&Aに係る関連費用の発生等、更なる成長・拡大に向けた先行投資によりコストが増加しておりますが、積極的な営業開発による事業拡大と日次決算マネジメントや徹底した現場改善の実施により生産性向上と利益確保に努めてまいりました。引き続き、更なる生産性の改善や新規連結子会社とのシナジー創出に取り組むとともに、料金交渉をグループ全体で推進してまいります。以上の結果、物流事業におけるセグメント利益（営業利益）は8,253百万円（同25.8%増）の増益となりました。

② その他

文書保管事業においては、積極的な営業活動による既存取引先及び新規取引先とのBPO（ビジネスプロセス・アウトソーシング）に係る案件の受託に努めました。また、ファイズホールディングス㈱の情報システム事業等を加えた結果、売上高は1,784百万円（前年同四半期比150.1%増）、セグメント利益（営業利益）は296百万円（同35.2%増）の増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、109,383百万円となり、前連結会計年度末に比べ23,473百万円増加いたしました。流動資産は57,516百万円となり、8,296百万円増加いたしました。この主な要因は、受取手形及び売掛金が5,151百万円、現金及び預金が2,936百万円増加したことであります。また、固定資産は51,866百万円となり、15,176百万円増加いたしました。この主な要因は、土地が7,928百万円、投資有価証券が3,707百万円、のれんが2,993百万円増加したことであります。

負債につきましては、74,454百万円となり、前連結会計年度末に比べ18,280百万円増加いたしました。流動負債は33,998百万円となり、10,025百万円増加いたしました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が3,523百万円、短期借入金が3,482百万円、1年内返済予定の長期借入金が1,898百万円、未払金が1,651百万円増加したことであります。また、固定負債は40,456百万円となり、8,255百万円増加いたしました。この主な要因は、長期借入金が7,343百万円、繰延税金負債が633百万円増加したことであります。

純資産につきましては、34,928百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,192百万円増加いたしました。この主な要因は、利益剰余金が3,392百万円、その他有価証券評価差額金が1,525百万円増加したことであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月10日に公表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,679	32,616
受取手形及び売掛金	18,196	23,347
貯蔵品	93	98
その他	1,264	1,469
貸倒引当金	△14	△16
流動資産合計	49,219	57,516
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,686	8,386
機械装置及び運搬具(純額)	2,366	2,333
土地	7,022	14,950
その他(純額)	4,362	4,333
有形固定資産合計	22,438	30,003
無形固定資産		
のれん	3,681	6,674
その他	1,334	1,193
無形固定資産合計	5,015	7,868
投資その他の資産		
その他	9,272	14,035
貸倒引当金	△36	△40
投資その他の資産合計	9,235	13,994
固定資産合計	36,689	51,866
資産合計	85,909	109,383
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,287	14,811
短期借入金	145	3,627
1年内返済予定の長期借入金	3,134	5,033
未払法人税等	1,652	1,470
賞与引当金	835	318
訴訟損失引当金	1	—
その他	6,916	8,738
流動負債合計	23,972	33,998
固定負債		
社債	5	35
転換社債	20,806	20,641
長期借入金	6,960	14,303
退職給付に係る負債	955	1,009
資産除去債務	786	797
役員株式給付引当金	31	30
従業員株式給付引当金	39	38
役員退職慰労引当金	55	52
その他	2,560	3,547
固定負債合計	32,201	40,456
負債合計	56,173	74,454

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,667	2,669
資本剰余金	2,343	2,347
利益剰余金	28,681	32,073
自己株式	△5,758	△5,757
株主資本合計	27,933	31,333
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,207	2,732
退職給付に係る調整累計額	△196	△163
その他の包括利益累計額合計	1,010	2,569
非支配株主持分	790	1,025
純資産合計	29,735	34,928
負債純資産合計	85,909	109,383

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	97,107	133,291
売上原価	86,291	118,686
売上総利益	10,815	14,605
販売費及び一般管理費	4,037	6,040
営業利益	6,778	8,564
営業外収益		
受取利息	165	166
受取配当金	92	112
固定資産売却益	15	73
その他	93	149
営業外収益合計	367	501
営業外費用		
支払利息	10	31
固定資産除却損	10	2
シンジケートローン手数料	—	23
その他	5	18
営業外費用合計	26	75
経常利益	7,120	8,990
特別利益		
負ののれん発生益	—	349
特別利益合計	—	349
特別損失		
出資金評価損	—	75
特別損失合計	—	75
税金等調整前四半期純利益	7,120	9,264
法人税等	2,025	2,923
四半期純利益	5,095	6,340
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	268
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,095	6,072



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	5,095	6,340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△424	1,525
退職給付に係る調整額	33	33
その他の包括利益合計	△391	1,559
四半期包括利益	4,704	7,900
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,704	7,630
非支配株主に係る四半期包括利益	—	269

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	物流事業				
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	96,394	713	97,107	—	97,107
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	133	294	427	△427	—
計	96,527	1,007	97,534	△427	97,107
セグメント利益	6,559	219	6,778	—	6,778

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、文書保管庫の賃貸事業及び不動産賃貸事業を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	物流事業				
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	131,507	1,784	133,291	—	133,291
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	92	302	395	△395	—
計	131,600	2,086	133,686	△395	133,291
セグメント利益	8,253	296	8,550	13	8,564

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、文書保管庫の賃貸事業、不動産賃貸事業及び情報システム事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメントに帰属しない持株会社に係る損益であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

当第3四半期連結会計期間において、(株)ドラゴンの株式を取得し完全子会社化したことにより、「物流事業」セグメントにおいて、負ののれん発生益を認識しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は349百万円であります。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。また、負ののれん発生益の金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。